

☆年間第5主日(2月5日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (イザヤの預言 58章 7-10節)**

飢えた者にはあなたのパンを分け与え、  
さまよう貧しい人を家に招き入れ、  
裸の人に会えば、衣を着せかけ  
同胞に助けを惜しまないこと。  
そのとき、あなたの光は曙のように射出で  
あなたの傷はすみやかにいやされる。  
あなたの正義はあなたの前に進み、  
主の栄光が、あなたのしんがりを守る。  
あなたが呼べば主は答え  
あなたが叫べば、「わたしはここにいる。」と仰せられる。  
くびきを負わずこと、指をさすこと  
呪いの言葉をはくことを  
あなたの中から取り去るなら  
飢えた者に心を配り  
悩む者の願いを満たすなら  
あなたの光は、闇の中に輝き出で  
あなたを包む闇は、真昼のようになる。

**第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙Ⅰ 2章 1-5節)**

兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

## 福音朗読（マタイによる福音書 5章 13-16節）

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

## 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

立春を過ぎましたがまだ寒い日が続いています。今日は例年ですと「日本二十六聖人殉教者」の記念の日にあたります。二十六聖人たちはこの寒い日々に関東から長崎までの旅を耐え忍びながら900キロの道を歩き通したのでした。その不屈の信仰は今の私たちに何を呼び掛けているのでしょうか。この寒さを耐え忍びながら考えてみたいですね。さて今日はどんな神のことばが私たちに語られるのでしょうか。

## 第一朗読（イザヤの預言 58章 7-10節）

イスラエルの民がバビロンに連れていかれ70年後に開放されて祖国の再建を始めたころにイザヤは人々に呼びかけています。律法の規定を形式的に守っていた人々に「主はそのような形ばかりの断食など好まれない。本当に主に気に入られることは何か」を教えています。それは「隣人に対する善い行いだ」と。そのような人々が主に呼びかければ「私はここにいる」と、主は応えてくださると。また、人を非難する言葉や態度、呪いの言葉を吐くことなどをやめるならあなたの光は真昼のように輝くであろう」とイザヤは呼び掛けています。この言葉は今日のイエスの言葉を思い起こさせ、また現代の私たちに対する呼びかけでもあるのです。

## 第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙Ⅰ 2章 1-5節）

パウロは自分の宣教の在り方について語っています。特別に優れた人間の知識や説教によるのではなく、神の力によるものだと述べています。そしてイエス・キリスト以外に何も知るまいと決心したとも述べています。すなわち宣教というものは人間的な力で行うものではないということです。パウロはコリントの教会に行った時には体力的には衰弱していて、コリントの人々に受け入れられるだろうかという不安と恐れに陥っていたということです。イエスは「恐れるな」と弟子たちによく呼びかけていましたパウロもきっとイエスから同じような言葉を聞かされていたことでしょう。私たちが自分の弱さに恐れをなすのではなく、神に信頼しましょう。

## 福音朗読（マタイによる福音書 5章 13-16節）

今日のマタイによる福音には「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」というイエスの有名な言葉が出てきます。料理の味や食べ物の保存にはなくてはならない塩ですが、その塩気、塩味が無くなれば不要な存在になります。ですからイエスは私たちに世の中にあってなくてはならない存在なのだとおっしゃっているのです。このちっぽけな存在である私は神の愛、神の存在の大事な証拠なのだと。また私の輝く存在、すなわち神が私の中におられるというものは隠しようもない。この私の存在、この光はどんなに小さくとも隠さずに輝かしなさいと言っておられます。今の時代に至るまでの多くの殉教者、聖人たちはまさにイエスのこの言葉を実践した人たちでした。今に時代においても地の塩、世の光となっている多くの方がおられるのもまた事実です。私たちがそのうちの一人でもあります。喜びにあふれた生き方それこそがイエスの求めるものなのです。

P.S.

花壇にも春が訪れようとしています。そう、チューリップの球根の芽が地表に顔を出し始めたのです。園児たちも一喜一憂しています。季節の言葉で三寒四温というのでしょうか。また東京に雪が降りだすと春は近いのです。今年の春に神様はどのような芸術作品を披露して下さるのでしょうか。楽しみです。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光